

山陰4議席 自民独占



初当選を果たし、花束を手に喜ぶ高見康裕氏—31日午後8時23分、出雲市今市町、ラピタウェディングパレス



地元支援者と電話をつなぎ感謝を述べる細田博之氏—31日午後8時5分、東京都千代田区、派閥事務所

島根

事実上の与野党候補の1

騎打ちとなった戦いは、厚氏が11選を決めた。政府とい組織力と知名度を武器に、党で要職を歴任して培ったした自民党前職の細田博之、政策実現力や新型コロナウイルス

1区 細田氏組織を固めて11選 2区 高見氏初当選 2新人圧倒

第49回衆院選が31日投票開票され、山陰両県4小選挙区は自民党の前職3人と新人1人が勝利し、6回連続で議席を独占した。島根1区は前職の細田博之氏、公明党推薦の立憲民主党政前職の亀井亜紀子氏と無所属新人の亀井彰子氏を抑えて11選。2区は新人の高見康裕氏、立憲民主党政新人の山本善氏と共産党新人の向瀬慎一氏を寄せ付けず、初当選した。鳥取1区は前職の石破茂氏、同氏が12選、2区は前職の赤沢亮正氏、同氏が6選をそれぞれ果たした。

それ果たした。比例中国ブロック(定数11)に重複立候補した立民の3人のうち、鳥取2区で敗れた元職の湯原俊二氏は復活し、2回目の当選。島根1区の亀井亜紀子氏は、投票率は島根が0・91増の61・55%、鳥取が1・73増の58・16%だった。

高見 康裕 41歳 (自民、新、雁公明)

元島根県議。読売新聞記者、海上自衛隊勤務などを経て、2015年の県議選出雲選挙区で初当選。故竹下亘氏の政界引退に伴う党県連の公募で後継に決まり、県議を2期目途中で辞職した。東京大学大学院公共政策学教育部修了。出雲市高岡町。当選1回。

細田 博之 77歳 (自民、前、雁公明)

元官房長官。党細田派会長、党島根県連会長。旧通産省(現経済産業省)勤務、父の故細田吉蔵元衆院議員の秘書を経て、1990年衆院選で初当選した。沖縄・北方対策担当相、党幹事長などを歴任。東京大学法学部卒。松江市堂形町。当選11回。

当選者 敬称略

1区

2区

鳥取選挙区開票結果	
1区 (1日午前0時0分、選管最終)	
当 105,441票	石破 茂 64 自前
19,985票	岡田 正和 39 共新
2区 (31日午後11時10分、選管最終)	
当 75,005票	赤沢 亮正 60 自前
63,947票	湯原 俊二 58 立元

2区 当選者(敬称略) 1区



赤沢 亮正 60歳 自民、前雁公明
元内閣府副大臣。1984年、運輸省(現国土交通省)に入省。企画官、旧日本郵政公社出向などをを経て、2005年の衆院選で初当選。党国対副委員長、国土交通政務官などを歴任。東京大学法学部卒。米子市日ノ出町1丁目。当選6回。



湯原 俊二 58歳 立憲民主、元自民
立憲民主、元自民。米子市市彦町。当選2回。

紙面編集・広田 佳史 (原田准史)

鳥取

1区

自民党前職の石破茂氏が高い知名度と厚い支持基盤を生かして共産党新人の岡田正和氏を圧倒し、12選を

決めた。得票率は84・1%で、目標の前回選(83・6%)を超えた。

石破氏は「謙虚で誠実な権を批判し、医療提供体制の充実などを主張。農業振興の訴えにも力を入れて農

2区

決めた。得票率は84・1%で、目標の前回選(83・6%)を超えた。

岡田氏は新型コロナウイルス対応を柱に安倍、菅政権を批判し、医療提供体制の充実などを主張。農業振興の訴えにも力を入れて農

1区 石破氏12選 圧勝で決める 2区 赤沢氏一騎打ち制し6選

イルス対策の強化などを訴え、支持を集めた。立憲民主党政前職の亀井亜紀子氏は、票の受け皿を目指したが及ばなかった。

自民党最大派閥の会長の細田氏が期間中に地元入り

元職の湯原俊二氏は支持を固められなかった。赤沢氏は新型コロナウイルス対策や防災の内閣府副大臣として、ワクチン確保や事業者支援などに取り組んだ実績を強調。公明党をはじめ、推薦した農業、建設業など134団体に支えられ、逃げ切った。

湯原氏は安倍、菅政権の経済政策が格差拡大を招いたとし、政権批判票の取り込みを狙った。だが、共産党が支持したことで、「反共産」の立場を取る連合鳥取の一部の離反を招いた。

1996年の小選挙区制の対決に臨んだ立憲民主

公明党は竹下氏の政治信条だった「ふるさと創生」を引き継ぐと強調。若さという行動力を前面に東京一極集中の是正などを訴えた。約150団体以上の推薦を得て、組織型の選挙を展開。地盤を引き継ぎ、「竹下王国」とも呼ばれる島根2区は、竹下氏の後継候補として立候補した党新人の高見康裕氏が初当選を果たした。立憲民主党政新人の山本善氏、共産党新人の向瀬慎一氏は大差で敗れた。高見氏の得票率は62・4%。陣営が目標に掲げた75%に届かず、前回選の竹下氏の実績(67・8%)も下回った。

島根選挙区開票結果

1区 (1日午前0時18分、選管最終)		
当 90,638票	細田 博之 77 自前	
66,847票	亀井亜紀子 56 立前	
4,318票	亀井 彰子 64 無新	
2区 (31日午後10時31分、選管最終)		
当 110,327票	高見 康裕 41 自新	
52,016票	山本 善 64 立新	
14,361票	向瀬 慎一 50 共新	

できたのは5日間だった。1回当たりの演説時間を短縮してこまめに街頭に立った。中国電力島根原発2号機(松江市)の早期再稼働も訴え、新型コロナウイルスの影響を感じさせない聴衆の多さで勢いを維持した。

本人の不在時は地元選出の党参院議員や県議がマイクを握って細田氏の実績をアピールし、団体や企業を回し、電話作戦も徹底。組織力で優位に戦いを進めた。島根県議は公的サービスの維持や消費税率の引き下げなどを主張し、政権交代の必要性を強調。連合島根を支持母体に、共産党と社民党の支えも得た。しかし、反原発の主張は一部の労働組合が反発。期待した党への追い風も吹かなかった。

無所属新人の亀井彰子氏は、元職の湯原俊二氏は支持を固められなかった。赤沢氏は新型コロナウイルス対策や防災の内閣府副大臣として、ワクチン確保や事業者支援などに取り組んだ実績を強調。公明党をはじめ、推薦した農業、建設業など134団体に支えられ、逃げ切った。